

第四回館山市議定会定例会會議録（第四号）

一、昭和五十四年十二月十五日（土曜日）午前十時

一、館山市役所議場

一、出席議員 二十七名

一番	神田 守隆	二番	石井 謀
三番	綱島 憲治	四番	横溝 功
五番	福原 勤	七番	古賀 礼四郎
八番	石井 昌治	九番	松下 正己
一〇番	穴戸 寿夫	一二番	栗原 一雄
一三番	近藤 好雄	一四番	渡辺 昭夫
一五番	伊藤 幸太郎	一六番	押元 稔
一七番	黒川 平治	一八番	流山 源次郎
一九番	石井 輝久	二〇番	石井 武敏
二一番	吉田 勇治郎	二二番	藤田 益治
二三番	菊井 敏博	二四番	和田 一郎
二五番	五十嵐 昇	二六番	伊賀 多朗
二七番	石井 正	二八番	安沢 徳順
二九番	安西 益男		
一、欠席議員 二名			
一一番	林 豊	三〇番	山口 康

一、出席説明員

第一号に同じ

一、出席事務局職員

第一号に同じ

一、議事日程（第四号）

昭和五十四年十二月十五日午前十時開議

日程第一

- 議案第五十一号 新たに生じた土地の確認について
議案第五十二号 新たに生じた土地を市の区域内に編入することについて
議案第五十三号 新たに生じた土地の確認について
議案第五十四号 新たに生じた土地を市の区域内に編入することについて
議案第五十五号 財産の取得について
議案第五十六号 工事請負契約の締結について
議案第六十三号 昭和五十四年度館山市一般会計補正予算（第二号）

日程第二

- 議案第五十七号 館山市青年館の設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例の制定について
議案第六十四号 昭和五十四年度館山市国民健康保険特別会計補正予算（第二号）

日程第三

- 議案第五十八号 事務の委託について
議案第五十九号 市営土地改良事業の施行について
議案第六十号 館山市国民宿舎事業の設置等に関する条例の制定について
議案第六十一号 館山市市営住宅の設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例の制定について
議案第六十二号 市道路線の認定及び廃止について
議案第六十五号 昭和五十四年度館山市水道事業特別会計補正予算（第二号）

日程第四 請願第四号 請願書

日程第五 議案第六十六号 館山市教育委員会委員の任命につ

て

日程第六 議案第六十七号 人権擁護委員候補者の推薦について

開 議 午前十時二十四分開議

○議長(石井 正君) 本日の出席議員廿七名、これより第四回市議会定例会第四日の会議を開会し、直ちに本日の会議を開きます。

議案の配付

○議長(石井 正君) 議案を配付いたさせます。

議案の配付漏れはありませんか。——配付漏れなしと認めます。本日の議事はお手元に配付の日程表により行います。

議案の上程

○議長(石井 正君) 日程第一、議案第五十一号乃至議案第五十六号、議案第六十三号の各議案を一括して議題といたします。

総務委員会委員長報告

○議長(石井 正君) ただいま議題となりました各議案は、去る十二月十一日の本会議において総務委員会に付託されたものであります。

よつて、これより各議案に対する総務委員会における審査の経過並びに結果につき委員長の報告を求めます。

総務委員会委員長松下正己君。御登壇願います。

(総務委員会委員長松下正己君登壇)

○総務委員会委員長(松下正己君) 去る十二月十一日開会の本会議におきまして本総務委員会に付託されました各議案について、翌十二月十二日総務委員会を招集し、全員出席のもとに各議案について審査を行いました。その経過並びに結果について御報告申し上げます。

まず、議案の慎重なる審査結果について、それぞれ全員原案どおり可決すべきものと決定いたしました。

次に、審査の経過について主なる事項を申し上げます。

議案第五十五号財産の取得についてにつきましては、用地取得に至るまでの経過と、放流について合意を得られたことにより相当量の土地が余ると思うがどのように利用するか、また具体的な計画を持つているかを尋ねましたところ、当初処理場の用地としては一万五千平米乃至二万平米が確保できれば考えたが、現施設の状況からして放流できなければ散布してでも稼働をさせなければならぬということと計画したが、結果的に放流できることになったことにより、処理場だけの用地として考えれば過大な投資と考えられるが、地主より一括でなければ売れないとの経過もあった。なお地元から周囲の環境整備についての要望もあるが、造園等環境美化だけでなく、運動場、野球場等の利用方法もあり市の幅広い行政面から先行投資的なものだと考えている。具体的には決まっていらないので今後検討していきたい答弁がなされました。

さらに、放流についての合意が得られたことで土地が余つてく

るが、このことから焼却場併設について考慮したことがあるか、また了解を求めるようさらに努力すべきではないかと説明を求めましたところ、当初は両方の施設ということで地元と折衝したが、出野尾、西長田、両地区とも焼却場を併設しないことを条件にしなければし尿処理場についても同意ができないとのこと、途中からし尿処理場だけということで進めたので、市としても両施設が設置できれば一番望ましいし、両地区の役員と密接に連絡をとつており、考え直していただきたいと話はある、しかし具体的にごみ焼却場ができることによつて約束を破るということになつてはいけなくて、そういうことを頭におきながらできる限り話は続けていきたいとの説明がありました。

用地が決定したことは、衛生行政の上からもまことに喜ばしいことであり、その努力には感謝するが、投資効果を最大ならしむるためにも、今後においても併設の方向で話を進めていくよう要望いたしました。

次に、散布、放流両方を考えながら計画を進めるという説明がいままでなされてきたが、現状では放流のみということで理解してよいかと尋ねましたところ、県の指導等もあり漁協と積極的に折衝を行つた結果、放流について了解が得られたが、ただ放流管敷設については途中の地域関係者との間で詰めが一部残されているが、稼働までには放流する見通しがついたので放流に統一したとの説明がありました。

次に、放流地先について、鏡ヶ浦には流してはいけない、外房なら良いという意見があると聞いておりますが、環境保全はどこでも同じだと思つたが、維持管理と含めて説明を求めました

ところ、いい施設をつくつても維持管理が万全でなければ良い結果は出ない、市として十分意を尽くして保全にあたる。監視委員会をつくつて放流水の状況を検査してもらつとか、排出基準を超えて好ましくない状態が改善されない様な場合は、施設をストップさせるとか、将来の維持管理に万全を期していきたいと前向きな答弁がなされました。

次に、議案第五十六号工事請負契約の締結についてにつきましては、契約金額についてはアタカ工業から示された金額そのままか、それとも交渉して値引きされた金額か、今少し値引きをさせる考えがあるのかと尋ねましたところ、会社から示された額はこれより若干上の数字であるが、安いがために処理に影響の出るようなことは絶対避けるようにということで示されたのがこの額であり、さらに交渉して値引きさせるといふことは考えていない。なお、国の定める補助起債等の基準として押さえる額は、キロリットル当たり九百七十四万一千円で、国、県で定める単価表でチェックできるものは市においてもチェックしたとの答弁がありました。

次に、市当局の努力でここまでできたことは感謝するが、もちろん議会としても一生懸命所り組んではきた。散布から放流になつたことと仮契約できたことは全然知らされなかつた。そのような姿勢では納得できないと市長に答弁を求めましたところ、市としては正規の手続きをやつたつもりではあるが、配達が足りなかつた、その点については反省しているとの答弁がなされましたので、市当局も大変御苦労なことが議会も努力をしている、今後このような問題は速やかに各委員会なり全員協議会なりの形の中で報

告してもらいたいと強く要望いたしました。

次に、散布方式から放流方式に変わったことで設備にどのような変化があるか、また経費についてはどう違うのか説明を求めました。散布の場合脱塩装置をつけなければならないし、散布するための配管、スプリンクラーが必要であるが、放流の場合は配管と、自然流下では放流ができないので、加圧のためポンプが必要である。本来の処理工程には変りがない。経費の面では散布の場合脱塩装置九千万を含めて十億一千万、ただし配管、スプリンクラーは含まない。放流の場合は脱塩装置がなくなるかわりに加圧ポンプが入るが九億二千万放流によつて減額になったと理解していただきたいとの説明がなされました。

次に、国の基準がキロリットル当たり九百七十四万一千円が標準だということになると安くはないではないか、この点について説明を求めましたところ、キロリットル当たり九百七十四万一千円はこれ以上かかっても認めないという国の限度であり、高度処理の場合キロリットル当たり千二百万から千三百万が一般的な価格であるといわれており、市においても計画を進める中で四方式を検討し、四社から見積もりを徴したが、そのときもそのような価格が出てきておるとの説明がありました。

本会議において機種についての質問もあつたが、この機種は安いが他に比べて劣ることはないかと尋ねましたところ、汚濁物質の排出総量から見ると、市として検討を加えた限りでは一番すぐれているとの答弁がありました。

次に、凝集剤について危険があるということだがどうかと説明を求めましたところ、最近の施設ではどこでも凝集剤を使つてい

る、処理場を運営していく中で、その地域に何が一番適当か選んで用いており、二次公害の出るような使い方は考えられないし、これについて心配してはいない。

先日論議されたポリマーについては、カチオン系、アニオン系ノニオン系の三つがあるが、これはそれぞれイオンのプラス、マイナス、中性で分類されている。単にカチオンポリマーといつても非常に製品が多い中には毒性の高いものもあるが、十分製品をチェックしていくつもりであり、そのようなことは絶対にないことを確信しているとの前向きな説明がなされました。

次に、企業の経営状況について危惧する論議が本会議においてなされたが、その点についてと、売り上げが三年間減っているように聞いているし、今年の六月期で六億の赤字を出しているようにだが、この原因について慎重な調査をしたかを尋ねましたところ、株主構成等を見ても日立造船二二%、協和銀行、住友信託、住友銀行がそれぞれ五%をもっている。五〇%近い安定株主がいるので会社が倒産するようなことは考えられないし、また日立造船が自分の水処理部門をやめてこれを傘下に入れたという経過もあるので危険性はないと自信を持っている。売り上げの減はIZ方式開発に五十年後半よりかかつて、従来の方式を手がけることを控えたことが理由であると聞いている。なお、六億の赤字については、日立傘下に入ることにつき社長交代があつてそれが原因で営業活動が落ちた、だが直後積立金を充て配当したと聞いているとの答弁がありました。

散布方式ということでIZを選んだように聞いているが、放流できる段階ではかの会社を考えたか、またその段階で他社の見積

もりを徴したか、その結果について発表できないかと説明を求めましたところ、散布方式によるということでアタカを選んだのではない、可能な限り低希釈ということで処理方式を検討した、その検討の過程で四方式を検討し、日本環境衛生センターの総合評価等も参考にⅠⅡに決定したので、放流できる段階で改めて他社について検討はしていない。見積もりについては放流できることになった時点での見積もりではなく、検討段階での見積もりを徴したが、概算の差はキロリットル当たり三百万近い差があつた。他の三社の差はほとんどなかつたと説明がされました。

そこで次に、ⅠⅡ方式は将来とも長くし尿処理施設として使われるか、アタカ工業は将来ともアフターサービスに努めてもらうこと、また市の環境変化によつて放流できないような事態があつても、この施設を利用して遺漏のないように処理できるものであると自信を持っているかどうか説明を求めましたところ、自信を持つてゐるとの答弁がありました。

また、次にⅠⅡ方式と活性汚泥処理方式があると思うが、三次処理をしたときの処理水はどちらがきれいかと尋ねましたところ、四社四方式を検討した段階での各資料から判定すると、汚濁量の総量についてはⅠⅡが一番除去率が高いと考えていると説明がされました。

次に、議案第六十三号昭和五十四年度館山市一般会計補正予算(第二号)についてですが、歳出中二款総務費七目防災対策費一五節耐震性井戸貯水装置設置工事費ですが、工事請負費九百万の内容と何カ所での地域に設置されるのかを尋ねましたところ、当初予算にお願いしたものに今回追加するというところで、本年度

は一カ所を予定している。場所はまだ確定ではないが那古地区に設置したいとの説明がありました。

次に、四款衛生費中四目衛生センター建設費一七節公有財産購入費の中に衛生センター搬入車道路用地購入費があるが、この道路の完成時期、買収価格は幾らかについて説明を求めましたところ、本年度早い時期に買収を完了し、来年度事業で建設したい、買収価格については一応の話がしてあるが、山林については反当たり百二十万見当を目安にし、宅地については平米当たり二万二千円前後、農地については山林の倍程度を考えているとの説明がありました。

次に、一〇款教育費中一目教育総務費一九節負担金及び交付金に館山市、富浦町及び三芳村学校給食組合負担金が六万五千円計上されておりますが、それはどの様なものか説明を求めましたところ、児童、生徒が当初予算を組みますとき館山市の場合八二・七七%であつたが、これが確定した時点で八二・八二%、六万五千円の増となつたと説明がされました。

また、これに関連して、一部事務組合関係の当初予算等今後資料として議会に配付するよう要望したところ、今後配付したい旨の答弁がございました。

次に、一〇款教育費中三目中学校費一五節工事請負費二千九百九十四万円の中に第三中学校柔道場新築工事請負費が計上されているが、施設の内容について説明を求めましたところ、鉄骨平屋建二百五十平米、トイレ、シャワー室、脱衣所を設け、畳五十畳、場所は体育館の北側にしたいとの説明がありました。

次に、歳入中繰入金三千八百万の減額についての理由を尋ねま

したところ、当初継続費全体で八千六百万の繰り入れを衛生セン
ター建設費で予定していたが、今回三カ年事業に延長になり、ま
た単独事業もふえた結果一億二千万ほどの繰り入れを予定してい
る、五十四年度に限っては不用になつてきたということで減額を
したとの説明がなされました。

次に、二十号台風のような災害の場合、市独自で農産物(特産
品)見舞金制度的なものを考えられないかと要望をかねて質問い
たしました。現時点ではこれといった方針も打ち出しておらない
状態ですが、今後関係機関と話し合つて検討していきたいと前向
きな答弁がありました。

以上、本委員会に付託されました議案七件について、総務委員
会における慎重なる審査の概要を御報告申し上げ、満場の御賛同
を賜りますようお願いいたしまして、総務委員会委員長報告とい
たします。(拍手)

○議長(石井 正君) 以上で委員長の報告を終わります。

ただいまの委員長報告について御質疑を願います。御質疑ござ
いませんか。——御質疑なしと認めます。以上で質疑を終結いた
します。

討 論

○議長(石井 正君) これより討論に入ります。

通告がありますので暫時発言を許します。

二九番議員安西益男君。

(二九番議員安西益男君登壇)(拍手)

○二九番(安西益男君) 議案第五十五号財産の取得についての討

論を行います。

この用地取得については、市当局は当初処理水散布のため広い
用地が必要との説明でした。しかし議案審議中での説明では、
当初より処理水を放流可能ならば放流の方法も進めておつたとい
うことでありました。放流方式ならばアタカの説明だと用地は現
在の二十分の一ぐらいいでも可能だとの見方もできます。また、市
の説明でも必要用地の七倍から八倍の広大な面積でもあります。
なお、地主が一括して買い上げなければ云々とのことでしたが、
聞くところによれば現場は砂を取つたあと地で、全く利用価値の
ないところとの判断が一般の認識であります。そこで一括して買
い上げなければならなかつたというようなことは、いまなお納得
しがたい面もありますが、いづれにしても貴重な予算執行であり
ますから、それだけに慎重を期して取り図られると思いますので、
方針が決定次第速やかに実現を促進していただきたいことを申し
添え、賛成の討論といたします。

続いて、五十六号工事請負契約の締結についての御要望を申し
上げ、賛成の討論を行いたいと思います。

議案質疑の中でもるる申し上げましたとおり、当初の説明と実
施の段階においては私どもの認識との間にだいぶ隔たりを感じて
おります。アタカ工業株式会社につきましては、私の得た確たる
情報ではかなりの不安材料はありますが、ごく最近アタカ工業と
の接触で確認されておられるようでございますので、経営もやや
好転しておるとの見解でもありますから、工事施行上問題を残さ
ぬよう念願し、処理施設が早急に完成できますようさらに検討さ
れますことを御要望申し上げますと同時に、契約の推移につきま

14 の 内

しては当局の事情もあつたかと思いますが、議会に対して何らかの意思表示をお願いしたい訳でありましたが、この点につきましては先ほど全協で市長さんの表明もありましたので了解いたしたいと思いますが、いずれにしてもこの施設が早急に完成されすことをお願いいたしまして、賛成の討論といたします。

○議長（石井 正君） 次、一番議員神田守隆君。

（一番議員神田守隆君登壇）

○一番（神田守隆君） 議案第五十六号工事請負契約について賛成の討論を行います。

し尿処理場の建設請負契約であるわけでございますが、これ自体について賛成するものであります。

しかしながら、散布方式から放流方式に切りかえたことに伴い、十分な処理がされ、公害は皆無に近いだろうとの説明とは言え、被害そのものが絶対にないとは言いません。さらに予期し得ない原因で事故などの危険も考えられます。こうしたことに対して、住民自身が直接行政に参加することによつてこのような不安に対処していけるような仕組みをつくるべきであると考えます。

漁協、地元農家などの代表を含む監視委員会をつくり、いつでも不安のあるときや、あるいは被害の出たときに立ち入り調査をし、操業停止勧告などのできるようにすべきであります。

また、当初の計画二カ年が補助金等の関係で三カ年事業になつたとは言え、処理場の建設そのものは市民にとつて緊急の課題であります。工事の早期完成を促したいと思います。

さらに、地方債への依存が当初九億五千万円からさらに二億四千三百万円余ふえるわけでありますが、こうしたことが市民のく

み取り料にはね返り、その値上げになりかねないという問題があるかと思ひます。こうしたことについては十分な配慮をして、そうしたことにならないように避けるべきであるというふうに主張いたします。

以上の三点を主張いたしまして、請負契約の締結に賛成いたします。

○議長（石井 正君） 以上で通告者による討論を終ります。

通告をしない議員で討論はございませんか。——討論なしと認めます。以上で討論を終結いたします。

採 決

○議長（石井 正君） これより採決いたします。

採決は一括して行います。

議案第五十一号乃至議案第五十六号及び議案第六十三号についての委員長報告は原案可決であります。

各議案を委員長の報告どおり可決することに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（石井 正君） 御異議なしと認めます。よつて議案第五十一号乃至議案第五十六号及び議案第六十三号の各議案はいずれも原案のとおり可決されました。

議 案 の 上 程

○議長（石井 正君） 日程第二、議案第五十七号及び議案第六十四号を一括して議題といたします。

文教民生委員会委員長報告

○議長（石井 正君） ただいま議題となりました各議案は、去る十二月十一日の本会議において文教民生委員会に付託されたものであります。

よつて、これより各議案に対する文教民生委員会における審査の経過並びに結果につき委員長の報告を求めます。

文教民生委員会委員長栗原一雄君。御登壇願います。

（文教民生委員会委員長栗原一雄君登壇）

○文教民生委員会委員長（栗原一雄君） 本定例議会において去る十一日文教民生委員会に付託されました議案二件について、翌十二日委員会を招集し、内容審査を行いました。

以下、委員会における経過並びに結果について申し上げます。

議案第五十七号館山市青年館の設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例の制定について及び議案第六十四号昭和五十四年度館山市国民健康保険特別会計補正予算（第二号）について、それぞれ全員一致をもつて原案どおり可決すべきものと決定いたしました。

次に、審査の過程における主なる事項について申し上げます。

議案第五十七号につきましては、青年館の建設基準について説明を求めましたところ、県の青年館建設助成要綱に従つて行つてゐるが、あくまでも地域コミュニティーの要望に基づいて設置を考えてゐる。なお、建設の地域については基準のないことが明らかにされました。

次に、議案第六十四号については、保険給付費の減額は今回国

庫負担金の返還金があり、その財源を療養給付費に求めたものであり、その根拠としては昭和五十四年度の予算編成時において国及び県の指導により医療費の五％の改定分を見込んだが来年三月までに医療費の改定が行われないこと及び上半期における保険給付費の支出の状況が前年対比で二％の減少となつておる状況判断によるものであるとの答弁がありました。その他、老人医療費及び一般会計からの繰り出しについての質疑が行われました。

以上、付託されました議案二件について本委員会における審査の概要を御報告申し上げます。満場の御賛同を賜りますようお願いいたします。文教民生委員会委員長報告を終わります。

○議長（石井 正君） 以上で委員長の報告を終ります。

ただいまの委員長報告について御質疑を願います。御質疑ございませんか。——御質疑なしと認めます。よつて質疑を終結いたします。

これより討論に入ります。

通告はありませんでした。討論ございませんか。——討論なしと認めます。よつて討論を終結いたします。

採 決

○議長（石井 正君） これより採決いたします。

採決は一括して行います。

議案第五十七号及び議案第六十四号についての委員長の報告は原案可決であります。

各議案を委員長の報告どおり可決することに御異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

○議長(石井 正君) 御異議なしと認めます。よつて議案第五十七号及び議案第六十四号の各議案は原案のとおり可決されました。

議案の上程

○議長(石井 正君) 日程第三、議案第五十八号乃至議案第六十二号及び議案第六十五号の各議案を一括して議題といたします。

建設経済委員会委員長報告

○議長(石井 正君) ただいま議題となりました各議案は、去る十二月十一日の本会議において建設経済委員会に付託されたものであります。

よつて、これより各議案に対する建設経済委員会における審査の経過並びに結果につき委員長の報告を求めます。

建設経済委員会委員長 流山源次郎君。

(建設経済委員会委員長 流山源次郎君登壇)

○建設経済委員会委員長(流山源次郎君) 去る十二月十一日の本会議において建設経済委員会に付託されました議案、一般議案五件及び特別会計補正予算一件について十二月十三日委員会を招集し、慎重なる審査を行いました。その経過及び結果について御報告申し上げます。

まず、最初に議案の審査結果について御報告申し上げます。

議案第五十八号乃至議案第六十二号及び議案第六十五号についてはそれぞれ全員一致をもつて原案どおり可決すべきものと決定いたしました。

次に、審査の結果及び経過における主な事項について申し上げます。

議案第五十八号事務の委託については、所管は農水産課であり、事務量の増大に対しては時間外勤務等を含め何とか対処していきたいとの回答を得て了承し、議案第五十九号市営土地改良事業施行について、その目的及び効果、交通規制の件、完成後の修理責任、側溝はつけるのか、館山市の分担予算の五点を重点に問いましたところ、その目的は農産物の流通合理化による農村地域の生活環境の改善に資するというところで、館山市、三芳村に大きな効果があると考えられる、通行量は一般車の通行も考慮される農道ゆえに特に規制はない、完成後の修理等の維持管理は市町村で行うことになっており、担当は農水産課である旨の回答と、事業費の内訳は館山市が一億七千七百四十七万円、三芳村九千四百二十三万円であるとの報告を聞き、さらに議案の中に「千葉県に工事を委託する。」の「千葉県」とは一体どこを指すのかの再質問に県の改良事務所であり、本庁は農林部耕地課であるとの答えを得て全員一致して原案どおり可決すべきものと賛成し、議案第六十号館山市国民宿舎事業の設置等に関する条例について、特に次の点を指摘いたしました。管理者を置かない理由について、冷暖房、遊技施設はつくるのか、さらに宿泊料金は幾らぐらいか、会議室規模等をただしましたところ、冷暖房は予定している、またゲームコーナーもあり、宿泊料金は一泊二食付きで三千四百円で、いこいの村よりやや安い料金である。会議室は和室で七十二畳を予定して、三つの区切り装飾を考えており、客室は十畳、七畳半であり、少人数の方は七畳半を利用していただく予定、会議室収

客人員は百名を予定し、マイクロバスでの送迎も考えているとの答弁に対し、施設、設備、その他のサービスについて万全を期してやっていたとき、現在館山市への観光客も減っており、市内の民営業との関係もあるので、そのへんの研究をしながら運営にあっていたのだきといふ要望を出して可決すべきものと決しました。

次に、議案第六十一号館山市市営住宅の設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例の制定についてを議題として、次の質疑応答を行いました。所得が基準をオーバーして退居する場合に退居料を請求されたことはないか、またそういう事態に備え公証人役場で契約をするとかお考えになったことはないかとの質問に、今後の問題として、木造住宅を建てかえる場合入居者と話し合つて補償の問題を考えなくちゃならないと思うが、高額所得者の場合いままでは退居料の請求を受けたことは一回もなかった。「公布の日」とはいつのことか、「なお従前の例による」この理由について、議決書が到着した日をもつて公布の日ということである、二十四日から適用するということは、建設省令が十一月二十四日に改正されておりますので、それに従つて告示のなされた日をもつて適用するということであり、「従前の例による」というのは改正前の規定によるということで、たまたま十一月二十六日に入居者選考委員会を行い入居者の決定をしてあるので、その場合の入居基準は変更前の入居基準で行つたことである。現在の入居者数は二百九十八世帯、そのうち第一種が二十六世帯であり、この条例改正に該当する世帯は、来年四月一日から割増家賃の関係が発足し、一種住宅七世帯、二種の三割増三十四世帯、八割増三十二世帯、計七十三世帯から変更前のものですが割増家賃をい

ただいている、条例改正により料金アップする人は七十三世帯と理解してよい。しかしながらいままで一種住宅にあつては四割増だけだったが二割増と四割増に分かれる、二種住宅にあつては三割増と八割増の間に五割増が入るとの説明を聞き、今後建てかえの際払い下げに対するトラブルが起る事も考えられるがその対処はどうかの問いに対し、払い下げの問題については市長が議会でご答弁したとおり。昭和五十年の十一月十七日に住宅局長の通達が出ており、三大都市圏では原則としては建てかえ、それ以外の地域でも住宅事情により低所得者が必要とするところでは三大都市圏に準ずる。払い下げ承認基準についても当該地域の実情から維持管理する必要はなくて、かつ建てかえによる増をはかる必要はないという条件になつていたので、入居申し込み者が三倍、四倍もあるので払い下げはできない、あくまでも低所得者に利用していただくということです。建てかえ時の補償については入居者と話し合つていくが、那古住宅については一世帯六万円支払い了解していただいたとの答弁に対し、いま予定しているのは笠名だけかと再度の質問に、一番古いのは十九年経過しているのもあり建てかえの時期にきているので入居者と話し合つて計画を進めていきたい、いま予定しているのは四十四件であるとの回答を得て、全会一致可決すべきものと決しました。

議案第六十二号の市道路線の認定及び廃止について、沖の島から大賀方面に抜かれるよう何とか道路ができなにか、沖の島利用の上からも倍増が見込まれるがとの問いに、護岸敷の上の通行は可能だが道路は不可能であると思う、けれども努力はしてまいりたいとの回答がありました。また、夏場の茶店の扱いはとの質

間に、防衛庁の敷地ではないので北条海岸の茶店と同じ手続きてやれる、また防衛庁の管理下になつても問題の起こらないように折衝過程で申し入れてあり、問題は起こらないとの答弁があり、全会一致可決すべきものと決定いたしました。

次に、議案第六十五号昭和五十四年度館山市水道事業特別会計補正予算(第二号)について審議に入り、給水戸数五十五戸増の場所はどこかの質問に対し、現在までの実績を踏まえて三月末までに加入するだろうという数であり、特別ことで何戸ということではないという回答があり、加入者分担金四百二十一万五千円の内訳は十三ミリ四万五千円で九十二戸、二十ミリ七万五千円の分担金で一戸との答弁に対し、加入戸数と分担金の戸数が違うかどうかとの再質問に対し、舗装等の場合にくつさくは三年間できないということと舗装前に加入する。給水は三、四年先という場合に給水戸数には結びつかない、その関係で戸数と加入金は一致しない旨の答弁があり、説明欄に記載してもらふよう要望するとともに、さらに前年度未収金二十七万七千円の増の内容と現在までの未収金は幾ら徴収されたかとの質問に対し、五十三年度決算で四千百万円程度の未収金があり現在まで三千八百五十万程度徴収されており、今回二十七万七千円の補正はこの程度の額がなお徴収可能であるということから補正した。さらに未収金が多く残るのは二月、三月の料金が検針の関係で未収金として処理されるからであるとの説明を受け、全会一致原案どおり可決すべきものと決しました。

以上、建設経済委員会に付託されました議案について、本委員会の審査の概要を御報告申し上げます。満場一致の御賛同を賜

りますようお願いいたしましたして建設経済委員長報告を終わります。
○議長(石井 正君) 以上で委員長長の報告を終ります。

ただいまの委員長報告について御質疑を願います。御質疑ございませんか。——御質疑なしと認めます。以上で質疑を終結いたします。

討 論

○議長(石井 正君) これより討論に入ります。

通告がありますので発言を許します。

一番議員神田守隆君。

(一番議員神田守隆君登壇)

○一番(神田守隆君) 議案第六十二号市道路線の認定及び廃止について反対の討論を行います。

この市道の認定及び廃止は果有地の防衛庁への払い下げ、すなわち基地の拡張をするためのものであります。当局の説明では、防衛庁と館山市との間で払い下げについての協定が四十一年に結ばれた、この協定に沿って行うもので、市民や観光客の往來の自由は保障されるというものでした。

私は、この案件につき、第一に館山航空隊基地は対潜水艦作戦の重要な基地であり、この払い下げが基地の拡張から基地機能の強化ということに結びつく危険があること。第二に、自衛隊の基地の拡張がこれまで観光や水産業など当市の産業の発展を阻害してきた経緯があること。第三に、沖の島への通行の自由は自衛隊法の下できわめて不安定なものであることを指摘し質問したわけでありますが、市長の答弁は心配はない、約束は相互の信頼の上

で成り立つもので信じているというものでありました。こうしたことは納得できるものではありません。

私は、改めて次の点を指摘し、議案第六十二号に反対するものです。

まず、沖の島は館山市民にとつて大切な憩いの場であります。そして、この沖の島に通ずるただ一本の道路は沖の島が市民の憩いの場たることの保証であります。道路がなければ沖の島はその意義を失います。ここを防衛庁に払い下げるといふことは、いわば沖の島の首根つこを譲ることになるといふことです。防衛庁との協定で海岸より十五メートル幅の土地を確保し、八メートル幅の通路を設けることをうたつてゐるわけですが、ここを利用すること、往來の自由については協定本文にはうたつていません。いつでも自衛隊の都合で通行できなくなるのではないかという市民の不安に、心配はないという市長の答弁だけではどうして市民の不安は消えるものではありません。

私は、沖の島を市民の憩いの場、館山市の平和と安全の象徴として守るということから、護岸の補修は県が責任をもつてやるべきことであり、沖の島への通路は市道として整備を図るべきことを強く主張いたします。護岸や道路舗装が安上がりでできるといふことで、市民の貴重な財産を事実上その運命を自衛隊に渡してしまふことになるこの払い下げに、市民の基本的な利益を守るといふ立場から反対をいたします。

以上で反対討論を終わります。

○議長（石井 正君） 以上で通告者による討論を終わります。

通告をしない議員で討論ございませんか。

（七番議員古賀礼四郎君登壇）

○七番（古賀礼四郎君） ただいまの案件に対し、賛成の討論をいたしましたと思います。

沖の島、鷹の島間の道路は、去る三十九年の協定以来十三、四年近く放置されておりました、市民はこの沖の島の観光開発に非常に期待しておつたんですが、そこに通ずる道路が全然整備されないといふことで、過去も現在も、また将来も非常に不安に思つております。この十三年間放置されたといふのは非常に修理に金がかかる、費用が莫大に要するといふことで、市のほうもこれは常に配慮されておられたところだと思ひますが、結局防衛庁自身があそここの基地の拡張といふことは考えておりません、と思ひます。それであくまでも観光に協力しようので、市のために協力しようといふので、今回所管がえの合意に達したものではなからうかと思ひます。

やはり、市民の憩いの場として沖の島を開発するためには、そこに通ずる道路を緊急に直さなければならぬ、そのためにはあそここの県有地を早く防衛庁に所管がえしてもらひ、完全に市民がやすらぎを得る沖の島の開発に着工しなければ、ますます期限は遅くなるといふことで、私はこの案に対して賛成の討論をいたします。

○議長（石井 正君） 他に討論ございませんか。——討論なしと認めます。以上で討論を終結いたします。

採 決

○議長（石井 正君） これより採決いたします。

採決は分括して行います。

まず議案第五十八号乃至議案第六十一号及び議案第六十五号について採決いたします。

各議案についての委員長の報告は原案可決であります。

各議案を委員長の報告どおり可決することに御異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

○議長(石井 正君) 御異議なしと認めます。よつて議案第五十八号乃至議案第六十一号及び議案第六十五号の各議案はいずれも原案のとおり可決されました。

次いで、議案第六十二号市道路線の認定及び廃止についてを起立により採決いたします。

本案についての委員長の報告は原案可決であります。

本案を委員長の報告どおり可決することに賛成の諸君の起立を求めます。

(賛成者起立)

○議長(石井 正君) 起立多数であります。よつて議案第六十二号市道路線の認定及び廃止については原案どおり可決されました。

議案の上程

○議長(石井 正君) 日程第四、請願第四号請願書を議題といたします。

建設経済委員会委員長報告

○議長(石井 正君) ただいま議題となりました請願書は、去る十二月十一日の本会議において建設経済委員会に付託されたものであります。

よつて、これより本請願書に対する建設経済委員会における審査の経過につき委員長の報告を求めます。

建設経済委員会委員長流山源次郎君。御登壇願います。

(建設経済委員会委員長流山源次郎君登壇)

○建設経済委員会委員長(流山源次郎君) 十二月十一日本定例会議において建設経済委員会に付託されました請願第四号請願書について、十三日委員会を招集し審査を行いました。

以下、審査の経過につき御報告申し上げます。

本請願書につきましては、なお慎重に審査を要するとの観点から閉会中の継続審査とすることに決定いたしましたので、御了承賜りますようお願い申し上げます。

継続審査について

○議長(石井 正君) お諮りいたします。

ただいまの委員長報告のとおり、本請願書につきましては慎重審査の必要上、閉会中の継続審査といたしますことに御異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

○議長(石井 正君) 御異議なしと認めます。よつて決定いたしました。

議案の上程

○議長（石井 正君） 日程第五、議案第六十六号館山市教育委員会委員の任命についてを議題といたします。

議案の朗読を願います。

（書記朗読）

議案の内容説明

○議長（石井 正君） 議案の説明を求めます。

（市長半澤良一君登壇）

○市長（半澤良一君） 議案第六十六号館山市教育委員会委員の任命について提案理由の御説明を申し上げます。

館山市教育委員会委員でございます古宮幸八郎君が、昭和五十四年十二月十八日をもつて任期が満了いたしますが、同君は人格、識見ともにすぐれており、教育委員として適任と考えますので、再任いたしたいと存じますので、皆さまの御賛同を得たいと思うわけでございます。

よろしく御審議のほどお願いいたします。

○議長（石井 正君） 説明は終了しました。

御質疑を願います。御質疑ありませんか。——御質疑なしと認めます。よつて質疑を終ります。

委員会付託の省略

○議長（石井 正君） お諮りいたします。

本案については委員会の付託を省略いたしたいと思ひます。これに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（石井 正君） 御異議なしと認めます。よつて決定いたしました。

討 論

○議長（石井 正君） これより討論を行います。

（一番議員神田守隆君登壇）

○一番（神田守隆君） 教育委員の選任に反対の討論をいたします。御提案のありました教育委員の選任でございますが、教育委員の選任は公選制によるべきで、市民みずからが教育の意思決定に参加する国民の教育権の具体的な制度ということができると思ひわけでありますが、残念ながらこの制度は現在廃止されているわけでありまして、私は現在の教育委員の選任方法そのものに異議を唱えるものでありますが、同時に現行制度のもとでも、教育委員は市民の立場から教育問題に対処すべきであると考えます。この間教育委員会の中学統合にあつての態度や姿勢にその点で釈然としないものを感じてきたわけであります。

いま、教育をめぐつて、青少年の非行化問題やあるいは幼児の教育のあり方など問題が山積しているわけでありまして、こうした問題に対処していくことを考えるとき、教育委員の再任であることの御提案に反対をいたします。

以上です。

○議長（石井 正君） 他に討論ございませんか。——討論なしと認めます。よつて討論を終ります。

採

決

○議長（石井 正君） これより採決いたします。

採決は起立により行います。

教育委員会委員任命について同意を求める件は、これに同意することに賛成の諸君の起立を求めます。

（賛成者起立）

○議長（石井 正君） 起立多数であります。よつて本件はこれに同意することに決しました。

議案の上程

○議長（石井 正君） 日程第六、議案第六十七号人権擁護委員候補者の推薦についてを議題といたします。

議案の朗読を願います。

（書記朗読）

議案の内容説明

○議長（石井 正君） 議案の説明を求めます。

（市長半澤良一君登壇）

○市長（半澤良一君） 議案第六十七号人権擁護委員候補者の推薦について提案理由の御説明を申し上げます。

目下一名欠員中の人権擁護委員の候補者として、人権擁護委員会法第六条第三項の規定により、佐野栄昭さんを最も適任と信じて推薦申し上げたいと存じます。

よろしく御審議のほどお願いいたします。

○議長（石井 正君） 説明は終わりました。

御質疑願います。御質疑ございませんか。——御質疑なしと認

めます。よつて質疑を終わります。

委員会付託の省略

○議長（石井 正君） お諮りいたします。

本案については委員会の付託並びに討論を省略、直ちに採決することに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（石井 正君） 御異議なしと認めます。

採決

○議長（石井 正君） これより採決いたします。

本案を原案のとおり可決することに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（石井 正君） 御異議なしと認めます。よつて本案は原案のとおり可決されました。

閉 会 午前十一時二十三分閉会

○議長（石井 正君） 以上で本定例会に付議されました案件はすべて議了されました。

よつて、これにて第四回市議会定例会を閉会いたします。

○本日の会議に付した事件

一、議案第五十一号乃至議案第六十七号

一、請願第四号

地方自治法第二百二十三条第二項の規定により署名する。

館山市議会議長

石

井

正

館山市議会議員

福

原

勤

館山市議会議員

和

田

一

郎

